



～人と人とを心でつなぐ“医療コンサルティング”～

C-plan 通信 2014・2月号

<http://c-plan.biz>

info@c-plan.biz

☎ 03-6280-4897

☎ 050-3588-6764

★患者さんから選ばれる医療を目指して★

「安心・安全・信頼」を得るポイントは良好なコミュニケーションです。

良好なコミュニケーション力を軸にあらゆる側面から組織風土を組み取り、新たな環境づくりに

取り組み続けます。

常に問題意識を持ち続け、前向きに経営に取り組まれている企業様・医療機関を支援し私達が提供したサービスがクライアント様に寄与し、ひいてはその先にあるお客様・患者さんに喜んで頂けることが私達の喜びです。



今月の C-plan

2月1日より、本社が移転致しました。

八重洲口より車で5分。徒歩15分。

近くにお越しの際には、是非お立ち寄りください。

☎104-0032 東京都中央区八丁堀 1-7-7

八重洲レザンビル 7F

TEL:03-6280-9241 FAX:050-3588-6764

- ・医療従事者としての心構え
 - ・接遇の基礎
 - ・院内コミュニケーション
 - ・報・連・相
 - ・人材育成
 -等
- 研修内容・コンサルティング内容・お時間・費用などお気軽にご相談ください



1月31日宮城県内公的医療機関にて研修会

活発な
接遇委
員会



1月28日宮城県内クリニックで継続研修

姿勢が良い
です！！

リーダ
ー研修



1月17日
東大病院講義

「患者さんの
ため」が合言葉

1月31日 富山
県内公的医療機関で研修会

◆大雪に苦しむ高齢者支援◆



牧丘病院長、雪の山間地へ

●牧丘病院長、雪の山間地へ

2014年02月23日(日)山梨日日新聞

<http://www.sannichi.co.jp/local/news/2014/02/23/12.html>

大雪後も通院できない高齢者宅を回る山梨市立牧丘病院長の古屋聡医師(左)＝大月市笹子町白野



まだ除雪が十分でない山梨県内の山間地で、診察に回る医師らがいる。通院できない患者の健康を支える在宅医療に取り組む、山梨市立牧丘病院長の古屋聡医師(51)もその1人。

いつもと同じように診察を受けられた患者たちが口にする言葉は「声を掛けに来てくれただけでもありがたい」。

大雪後の在宅医療の現場取材した。〈斉藤裕介〉

人が歩ける程度に雪かきされた大月市笹子町白野の坂道。20日午後、この坂を上る古屋医師の姿があった。彼を待っていたのは1人暮らしの西山幸雄さん(88)。

「元気で良かったよ」「飯(めし)食べてる?」。古屋医師は声を掛けながら西山さんの脈拍や血圧の検査を済ませて、薬を渡した。

「雪の中、こんな遠くまで来てくれて…。何から何までありがとう」。別れ際、西山さんは感謝の言葉を口にした。

古屋医師によると、牧丘病院は県内で在宅医療に積極的に取り組む病院の一つ。同院の在宅医療サービスでは、医師のほか、訪問看護師、リハビリ担当者が患者宅を定期的に訪れる。在宅医療の利用患者は峡東地域を中心とした独居老人ら約300人。今回の大雪を受け、訪問診療を担当する常勤医5人や訪問看護師らが総出で対応す

る。まず行ったのは在宅医療や外来の高齢患者らの安否確認だった。

西山さんは在宅医療の利用者ではないが、都内に暮らす息子の手を借りて月1回のペースで同院に通う。大雪後、西山さんのもとにはヘルパーも行けない状態だったため、往診することになった。西山さんを診た後、古屋医師は次の患者の家へと向かった。

24時間365日対応し、大雪に見舞われても患者のもとに向かう在宅医療について、古屋医師は「インフラ」と語る。どんなときもいつも通りの生活を送れるようにして患者に安心感を与えることが在宅医療に関わる者の使命と考えているからだ。今回、安否確認で連絡が付かなかった患者の家には直接出向いた。東日本大震災の発生後から被災地で医療活動に取り組んでいる経験が役立っていると実感しているという。

今、気になっているのは、安否確認は取れているものの、まだ立ち入ることのできない甲州市の一之瀬高橋に暮らす患者たち。

医療サービスも大事だが、自分が赴くことで誰も来てくれないことに対する不安を解消してあげたいという。

「ちゃんと食べているかって声を掛けたい。医師というよりも子どものことを心配する親と同じ気持ちなんです」。古屋医師は雪を踏みしめながら語った。

--



「どんな時でも患者に安心感を与えることが、

在宅医療に携わる者の使命」

心に響きました！！



◆スポーツ選手の力と◆存在

ソチ五輪 スケート小平選手、所属病院の患者に力

ソチ五輪 スケート小平選手、所属病院の患者に力

(2014年2月12日)【中日新聞】【朝刊】

<http://iryuu.chunichi.co.jp/article/detail/20140212075000364>

84歳 「順位は何番でも 笑顔がみたい」

過酷な練習に耐え、栄光に向かって挑み続けるスポーツ選手の存在は、病と闘う人を勇気づける。

ソチ五輪では11日の女子500メートルでは5位だったスピードスケートの小平奈緒選手(27)は80代の女性と交流を続ける。

複数の病で病院に通うおばあちゃんは祈っている。「順位は何番でもいい。奈緒ちゃんの笑顔がみたい」と。

激励会に出席した小平奈緒選手(右左)と談笑する滝沢さん＝長野県松本市で(2013年10月撮影)



【ソチ＝市川泰之】13日には女子1000メートルにも出場する小平選手と、交流を続けているのは長野県松本市の滝沢借子(ともこ)さん。

84歳の滝沢さんは、60年連れ添った夫の忠寿(ただとし)さんを2009年春に亡くした。長女の千寿子さん(53)は「父の世話が趣味のような人。しばらくふさぎ込んでいました」と振り返る。

小平選手を知ったのは、忠寿さんを亡くし、気を落としていたころ。
肝臓の機能低下や足腰の関節炎など複数の持病で、かかり付けだった同市の相沢病院に所属する選手が五輪に出ることを知り、その年の暮れに「体に気を付けて」と病院を通じて手紙を出した。
団体追い抜きで銀メダルを獲得したバンクーバー五輪後は、病院を通じて手紙をやりとりするようになり、その数はこれまでに10通以上になる。

そんな2人が初めて会ったのは、10年3月4日。
小平選手が相沢病院に銀メダルの凱旋(がいせん)報告会のため、訪れたときのことだった。滝沢さんはたまたま、病院にいた。直接、銀メダルに触れ、小平選手から「闘病、頑張ってください」と声をかけられた滝沢さんは、ちょうどその日が誕生日。「忘れられない一日になりました」と目を潤ませた。

病院所属とはいえ、練習し、試合に出ることが仕事の小平選手が病棟を回り、時間をかけて患者に銀メダルを報告する優しい人柄も知った。それ以降、県内の試合には必ず顔を出す。

「彼女の滑りを見ていると、自然とパワーをもらえるんです」と滝沢さん。
「ひた向きにスケートに取り組む、さわやかな人柄」に魅了され、夫を亡くしたショックからも立ち直った。
千寿子さんは「応援を始めてから、母の表情はずいぶん明るくなりました」と話す。
遠方のためソチ行きはあきらめ、自宅で声援を送る。

影響力が人を元気にしてくれる！素敵です！！





◆心が痛みます◆

中国版「赤ちゃんポスト」には障害児や病弱児ばかり

●【中国トンデモ事件簿】

中国版「赤ちゃんポスト」には障害児や病弱児ばかり 高額医療や養育費負担が原因？

2014.2.22 12:00 産経 MSN

<http://sankei.jp.msn.com/world/news/140222/chn14022212000002-n1.htm>

親が育てられない子供を匿名で受け入れる中国版「赤ちゃんポスト」に入れられた新生児や幼児のうち、99%が何らかの病気や障害を持っているとの統計が今月、報じられた。目前の医療費や将来の養育費などの負担を悲観した保護者が育児を放棄したものとみられる。

2011年に始まった中国版赤ちゃんポストの設置は急速に広まりつつあり、児童福祉や社会保障の在り方をめぐり論争を呼んでいる。(田中靖人)

全国に広がる制度

中国中央テレビ(CCTV)が11日に報じた内容によると、福建省アモイ市の赤ちゃんポストで1月5日午前4時すぎ、2歳未満とみられる女児が入れられた。

女児は脳水腫を患い下半身マヒで、「すでに30万元(約500万円)以上の医療費を使い、負担を続けることができない」という趣旨のメモが残されていた。

中国共産党機関紙、人民日報が運営するサイト「人民網」の17日付の記事によると、中国版赤ちゃんポストは「棄嬰安全島」と呼ばれ、児童福祉施設の正門近くなどに設置される。内部には空調や幼児用のベッドが備え付けられ、赤ちゃんが入れられると5～10分後に警報が鳴り、施設の職員が駆けつける。

11年6月に河北省石家荘市の社会福祉施設に設置されたのを皮切りに広まり始め、現在は省や自治区、中央直轄市など34の一級行政区のうち、天津市や黒竜江省など10行政区で計25カ所の赤ちゃんポストが運用されている。

さらに18行政区で同様の計画が進行中という。

実態は…

赤ちゃんポストは日本では現在、熊本市の慈恵病院が唯一、「こうのとりのゆりかご」と命名して運用。最近では、連続ドラマ「明日、ママがいない」の内容をめぐる同病院が抗議したことで、関心が集まった。ただ、中国の場合、日本とは事情が大きく異なるようだ。

11日のCCTVの放送によると、広東省広州市では1月28日に運用を開始したところ、2月10日までのわずか13日間で、51人が入れられた。そのうち3分の2がダウン症だという。

17日の人民網の記事は、政府から委託を受け児童福祉事業を展開する中国児童福利養育センターの統計として、赤ちゃんポストに入れられた幼児の約99%が何らかの病気や障害を持っていると報じている。

また、「遺棄」の主な原因として、高額の治療費が支払えないことや将来の「特殊教育」の費用への懸念を挙げ、「わが国の児童福祉制度が不完全であることを示している」と指摘している。記事では報じていないものの、中国特有の「一人っ子政策」も背景にあるとみられる。

政府も対策を検討

中国でも当然、子供の遺棄は刑事罰の対象となる。ただ、民政省は赤ちゃんポストについて「生命至上(主義)と子供の利益優先の原則に基づいており、未成年者保護法の精神や刑法と矛盾しない」としている。

民政省は子供の医療制度の充実や障害者家庭への支援金などの制度創設を検討しているという。

人民網の記事は、石家荘市の社会福祉院の院長の話として「われわれは社会が子供を遺棄する行為を変えることはできないが、さまざまな手立てを考えることで、遺棄された子供の将来を変えることはできる」と伝えている

基本が大事！！ 接遇 6 原則

(接遇の6つのキーワード)



忙しい時ほど、うっかりしがちな基本行動です。日常業務の中で生かしていく為にも、常に意識し、なぜ必要かをご自身の経験の中で身に付け、実践してみてください。

【参考】今日からできる医療機関の接遇向上術 小山美智子著



◆C-plan 勉強会◆

新事務所にて勉強会を行いました。毎月継続して行っておりますが、新しい事務所で心新たに、学びを深めることができました。

